

Jop

3 2022

矯正臨床ジャーナル
Journal of
Orthodontic
Practice

編集局名：
Journal of Clinical Orthodontics (USA)

症例報告—E.S.K. の軌跡 (5) 上顎右側第一大臼歯抜歯の犬歯部開咬症例

Clinical Management

歯科医師と私設歯医：口腔がんを中心に-2

慢性炎症と口腔がん

Clinical Orthodontics

Dr. 栗田のCase Study -8

歯科矯正用アンカースクリューを

利用した永久歯の一期治療

—歯槽性上下顎前突の非抜歯治療6症例

Clinical Report

補綴前処置としての矯正歯科治療

多数歯に不適合補綴装置が

装着されていたAngle Class III症例

Hygiene Work

DHのための矯正臨床マニュアル-3

資料採得（口腔内・顔面規格写真）-1



3

TORIN BOOKS

多数歯に不適合補綴装置が装着されていたAngle ClassⅢ症例

川里邦夫 (かわさと 歯科・矯正歯科 大阪市北区)

はじめに

歯の位置が不正であると、修復治療で高い到達点に達することはかなり難しくなる。よって、矯正歯科治療により無理なく修復治療の行える状態にまで歯の位置をコントロールしておくことが重要である¹⁾。

本症例は、叢生と多数歯に不適合充填物・補綴装置がされた成人男性のAngle ClassⅢ症例を、歯肉組織の改善を行い、修復補綴歯科治療を併用して、

上顎はラビアル、下顎はリングルのハーフリングルによる矯正歯科治療を行い、良好な咬合が得られたので報告する(図1~8、表1)。

症例の概要

治療開始年齢は38歳4か月で、上下の覆歯の叢生と交叉咬合を主訴に来院した。全身所見に特記事項は認められなかった。顔貌では、正貌は下顎が左側へ偏位していた。傾斜はオトガイの突出を伴う下顎



図1 初診時の顔貌および口腔内写真(38歳4か月)